

Q 地域包括ケアシステムの構築に向けて

高田 克彦 議員



A 多職種が情報を共有し、連携できる体制づくりを進める

問 在宅医療と介護の連携の進み具合は。

答 坂戸鶴ヶ島医師会を中心に医療サービスと介護サービスが連携できる体制づくりを進めている。

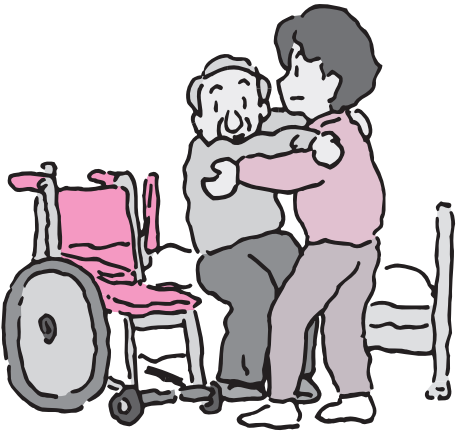
訪問診療の充実、在宅療養支援ベッドの確保、居宅療養管理指導等の提供が行われている。今年度中に定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを開始する予定である。

問 認知症の対応を含む介護予防は。

答 平成28年4月から、いわゆる相当サービスを実施している。今年度中に訪問介護の基準緩和型サービスと短期集中型サービスを実施する予定である。認知症カフェを開設したほか、認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の方が安心して暮らせる体制整備を進めている。

家族介護を地域包括ケアに位置づける必要があると考えるが。
答 家族介護は高齢者の在宅生活の上で大きな役割を担っており、その負担軽減は重要な課題である。本人や家族が安心して希望するサービスを受けられる体制の構築が家族介護の負担軽減につながる。

◎**その他の質問** 農大跡地と周辺問題について



Q 投票率向上に向けた取組

高橋 剣二 議員



A 投票参加の呼びかけと併せ、投票環境向上施策の周知を行う

問 鶴ヶ島市の投票率の動向は。

答 国政選挙は50割台、市議会議員選挙は40割台、県議会議員と市長選挙は30割台、県知事選挙は20割台で、いずれも低下傾向にある。

問 18歳及び19歳の投票率は。

答 昨年の参議院埼玉県選出議員選挙では、18歳が55・01割、19歳が45・21割であった。

問 投票率低下をどう考えるか。

答 公職の候補者には、有権者にとって政治に期待ができ、かつ関心を持ってもらうことも投票率向上には重要であるとの認識を持っていただきたい。一方、有権者の側の投票に参加する努力も必要である。

問 投票率向上への新しい取組は。

答 10代の投票率向上のため、鶴ヶ島市明るい選挙推進協議会に鶴ヶ島清風高等学校の生徒会役員に加わってもらった。また、埼玉県内初の移動期日前投票所の開設、子育て世代への啓発としての乳幼児健康診査での啓発品の配布等を予定している。

問 投票済証明書のデザイン化、証明書の提示での商店のサービスによる地域おこし等の考えは。

答 投票率の向上と地域の活性化が見込める一方、投票の自由の侵害や買収の懸念など、賛否両論あるので、慎重に研究したい。



投票箱